

決算概要

業績ハイライト

おきぎんグループ親会社株主に帰属する当期純利益は55億円
 貸出金利息等は増加するも株式等売却益・役務取引等収益の減少のため経常収益
 は減少(減収)
 与信関連費用・物件費の上昇により経常利益も減少(減益)

2019年度業績

(単位：億円)	連結	単体
経常収益	521	370
経常利益	81	67
当期純利益	55	49

※連結の当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

業績の概要

	単位：億円		
【連結】	2019/3期	2020/3期	前期比
経常収益	535	521	△ 13
経常利益	105	81	△ 24
当期純利益(※)	71	55	△ 16
※当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益			
【単体】	2019/3期	2020/3期	前期比
経常収益	390	370	△ 20
業務粗利益	287	291	3
資金利益	273	279	5
役務取引等利益	19	16	△ 2
その他業務利益	△ 6	△ 4	1
経費（除く臨時処理分）	212	217	4
うち人件費	94	95	0
うち物件費	102	106	3
実質業務純益	74	73	△ 0
コア業務純益	82	81	△ 1
投資信託解約損益	1	7	5
除く投資信託解約損益	80	73	△ 7
一般貸倒引当金繰入額	-	△ 2	△ 2
業務純益	74	75	1
臨時損益	21	△ 8	△ 29
うち償却債権取立益	2	1	△ 0
うち株式等関係損益	19	△ 3	△ 22
うち不良債権処理額	3	12	9
経常利益	95	67	△ 28
特別損益	△ 0	△ 0	0
税引前当期純利益	94	66	△ 28
法人税等合計	26	17	△ 8
当期純利益	68	49	△ 19

	単位：億円		
【単体】業績予想との比較	計画	2020/3期	計画比
経常収益	351	370	19
コア業務純益	70	81	11
業務純益	72	75	3
経常利益	65	67	2
当期純利益	46	49	3

損益のポイント（単体）

経常収益 貸出金利息は増加するも、株式売却益等の臨時収益が減少したため対前年度比20億円減少の370億円(減収)

コア純益 役務取引等利益の減少、物件費等の増加などにより対前年度比1億円減少の81億円

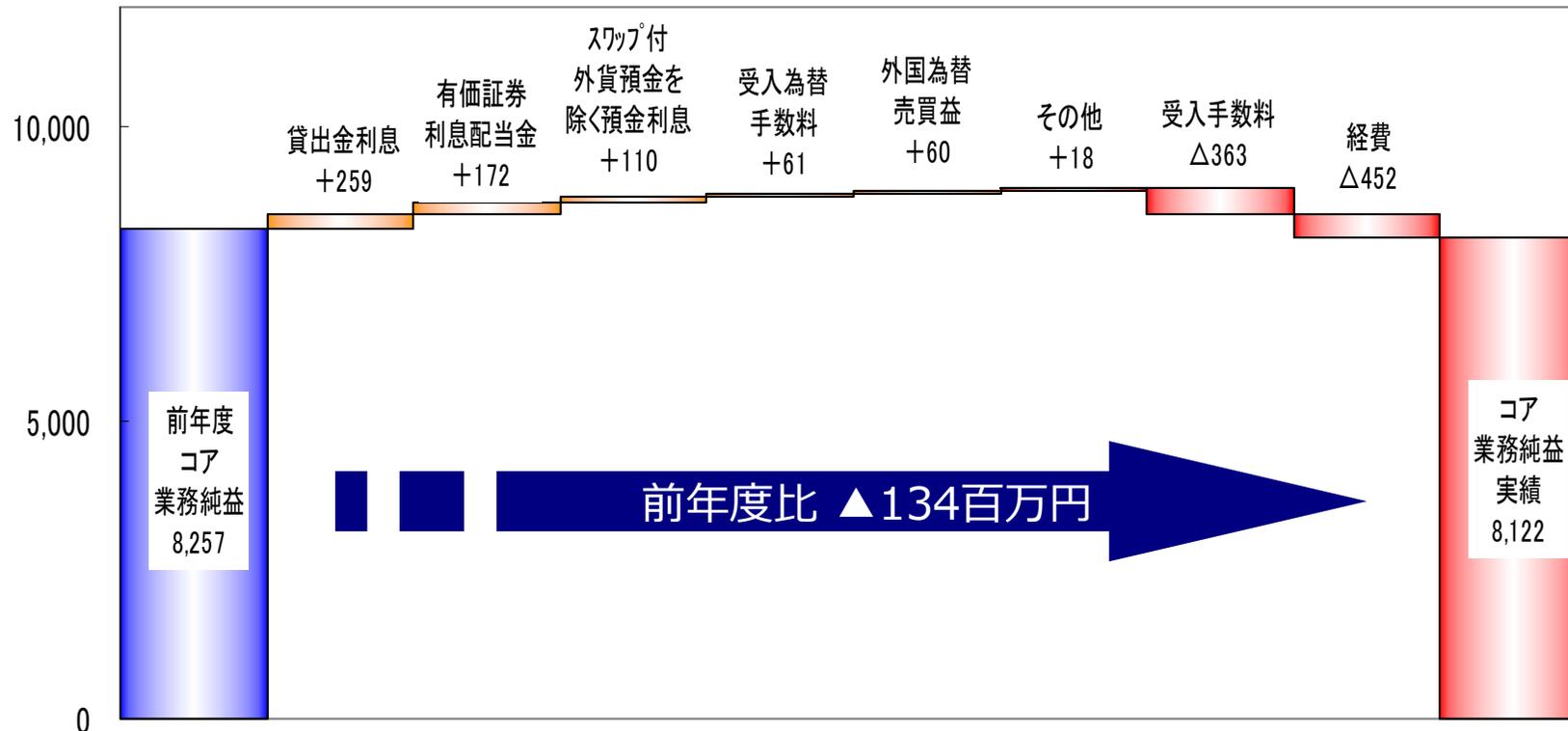
経常利益 与信費用の増加、株式等売却益の減少などにより対前年度比28億円減少の67億円

以上より減収減益となりました。

コア業務純益の増減

コア業務純益は、貸出金利息の増加等があったものの、受入手数料の減少・経費の増加等により対前年度比1億34百万円の減少

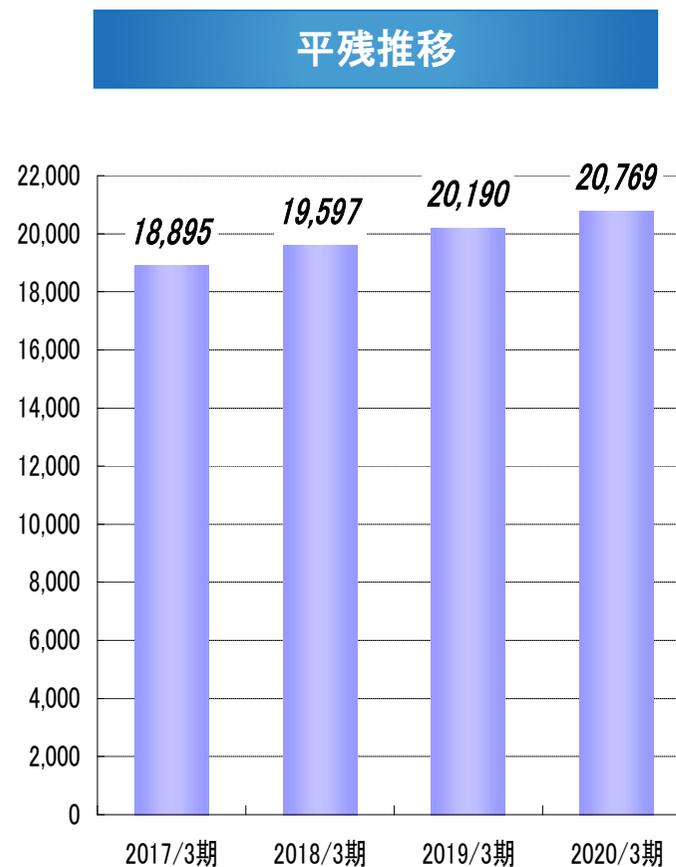
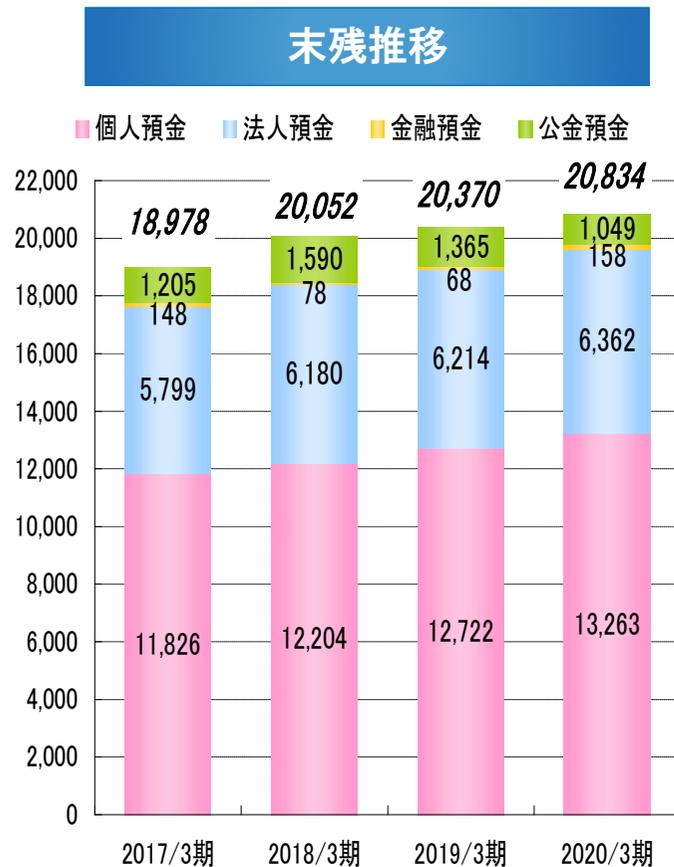
単位：百万円



預金の推移（未残・平残）

総預金未残は463億円増加の2兆834億円
個人預金541億円増加、法人預金147億円増加、公金315億円減少

(単位：億円)



個人預金

給振・年金口座の獲得の
 継続的な取組みにより流
 動性預金増加

法人預金

S R 活動による資金トレー
 スで流動性預金増加

※信託勘定を含んでおります。

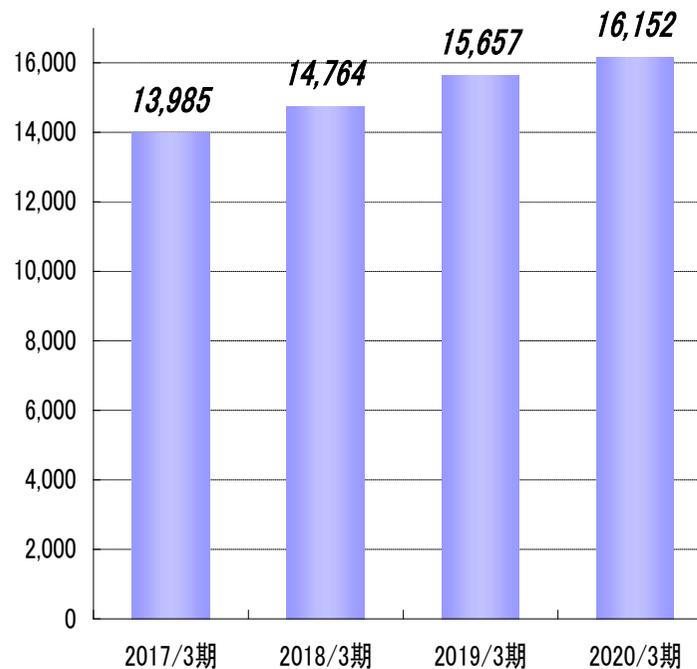
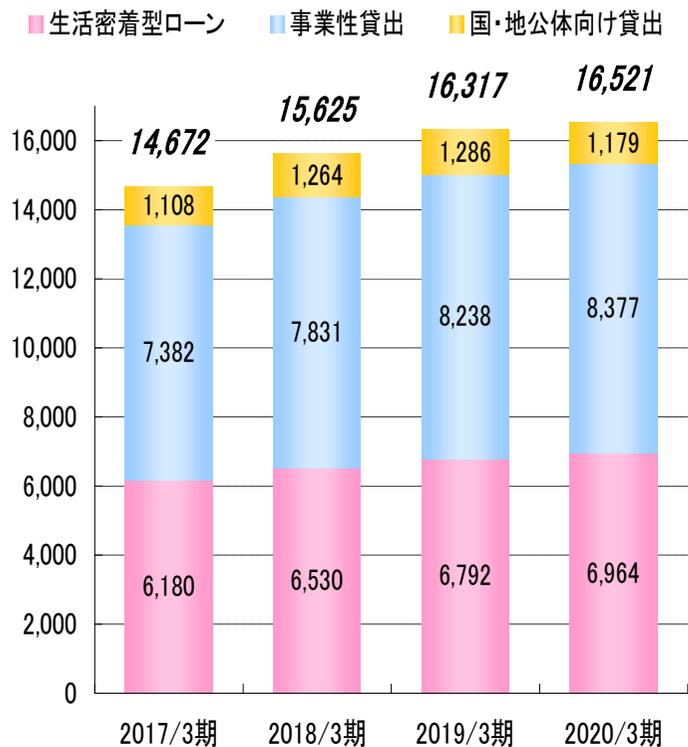
貸出金の推移（末残・平残）

総貸出金末残は204億円増加の1兆6,521億円
事業性貸出は139億円増加、生活密着型ローンは171億円増加

(単位：億円)

末残推移

平残推移



事業性貸出
増加要因
不動産

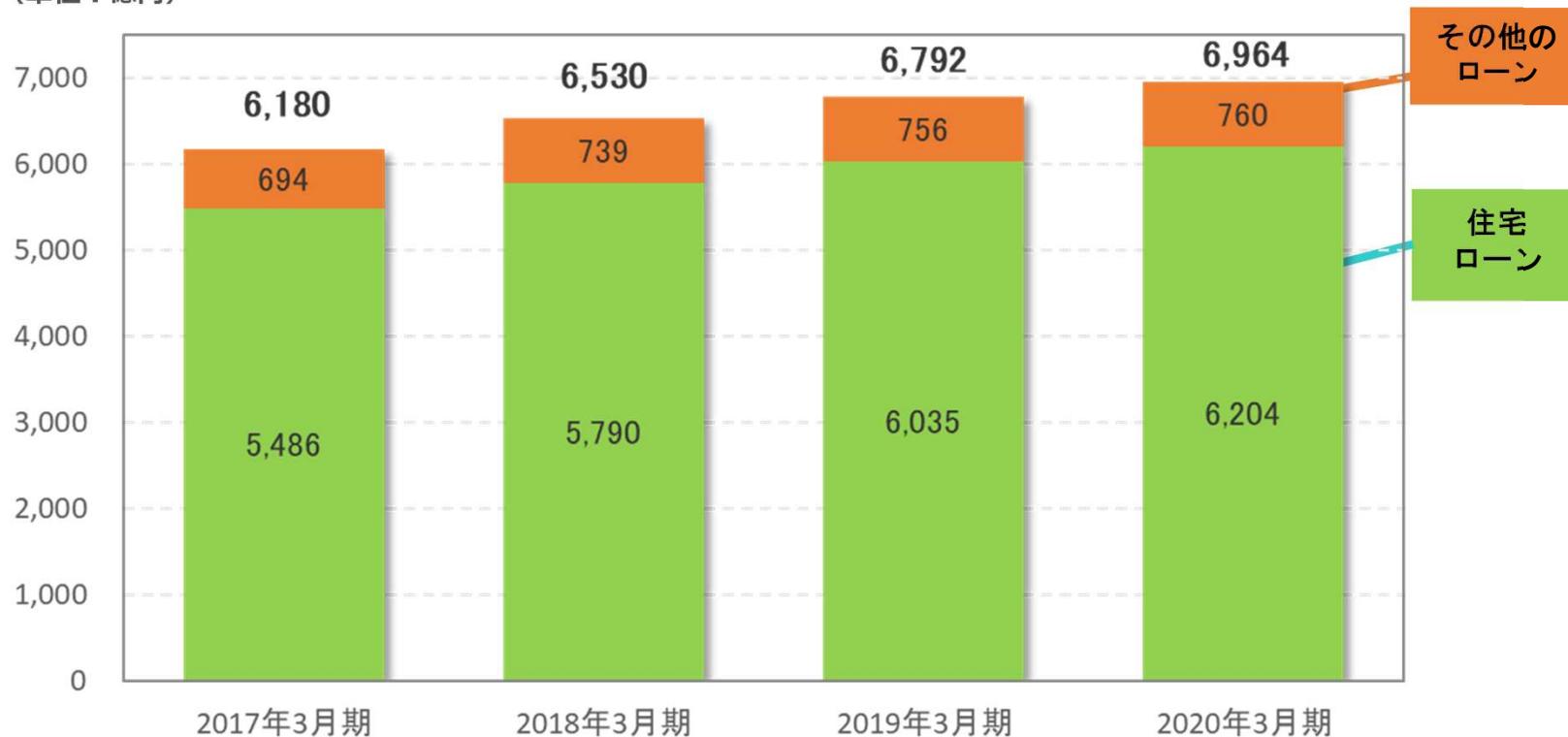
生活密着型
ローン
増加要因
住宅ローン

※信託勘定を含んでおります。

生活密着型ローンの推移（末残）

住宅ローンは168億円増加 その他ローンは3億円増加
生活密着型ローンは前期比171億円増加（+2.52%） 合計6,964億円

（単位：億円）



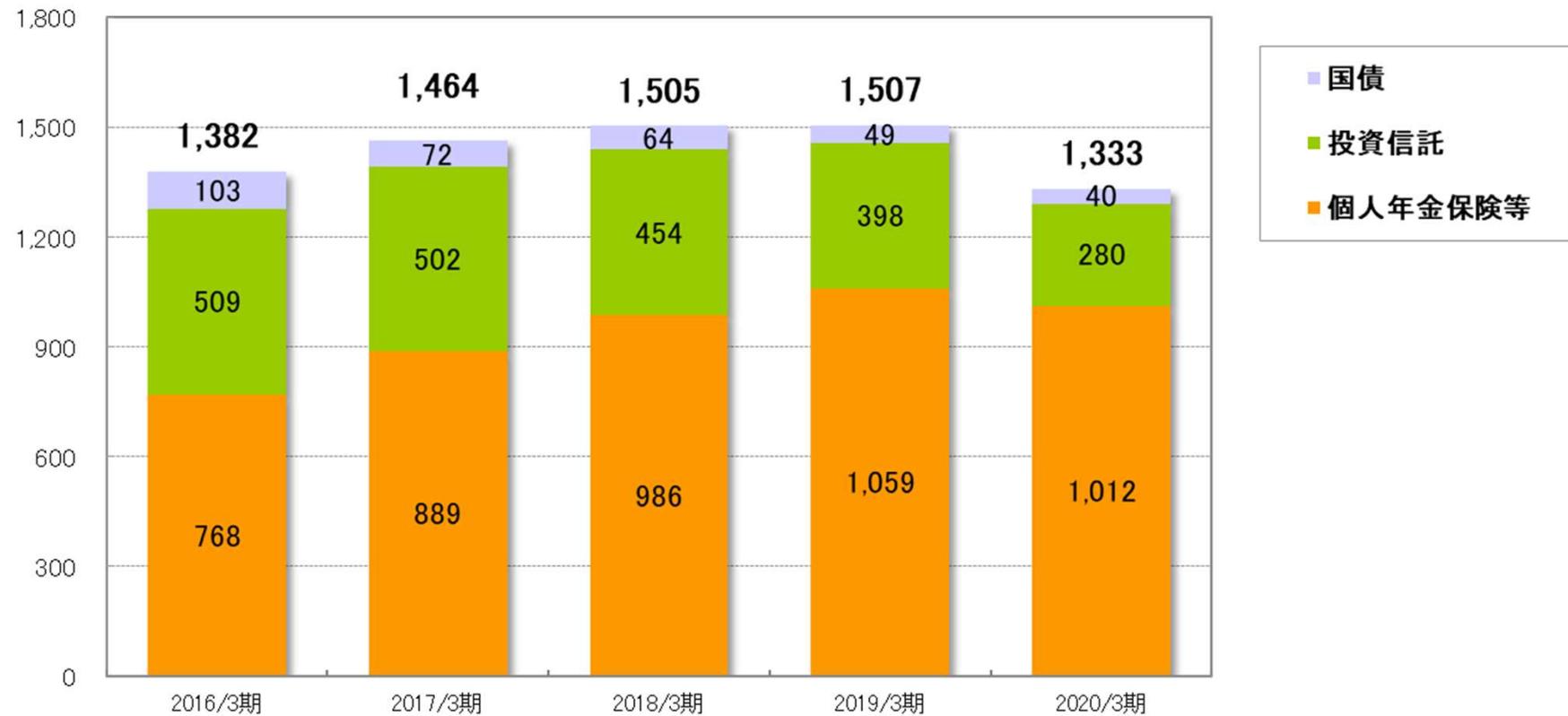
※信託勘定を含んでおります。

※生活密着型ローン：お客さまの生活に密着した資金を提供するローン。いわゆる個人ローン、消費性ローンのこと

預かり資産の推移

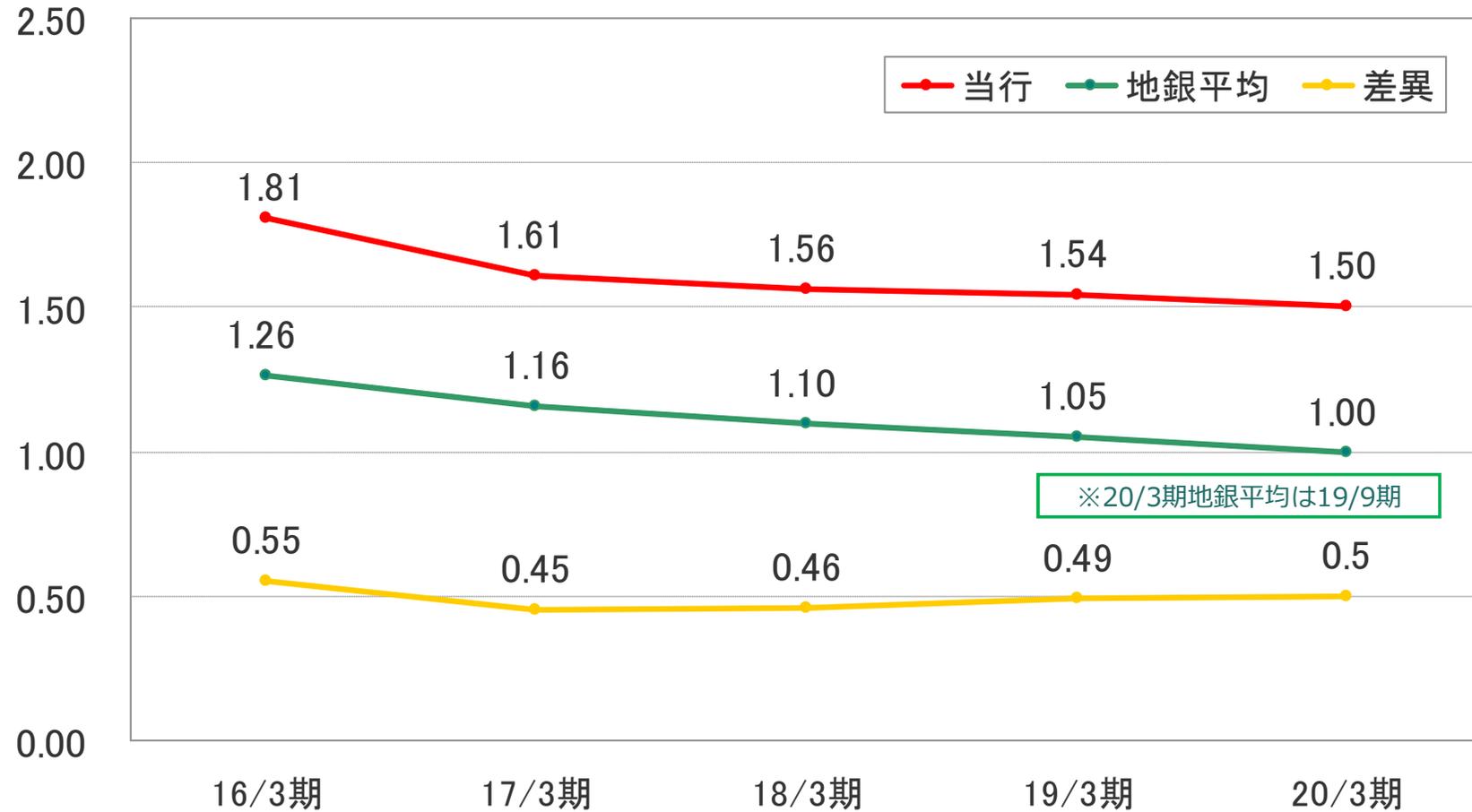
全項目において減少となり、預かり資産全体で174億円の減少となる。

(単位：億円)



預貸金利回り差（国内）

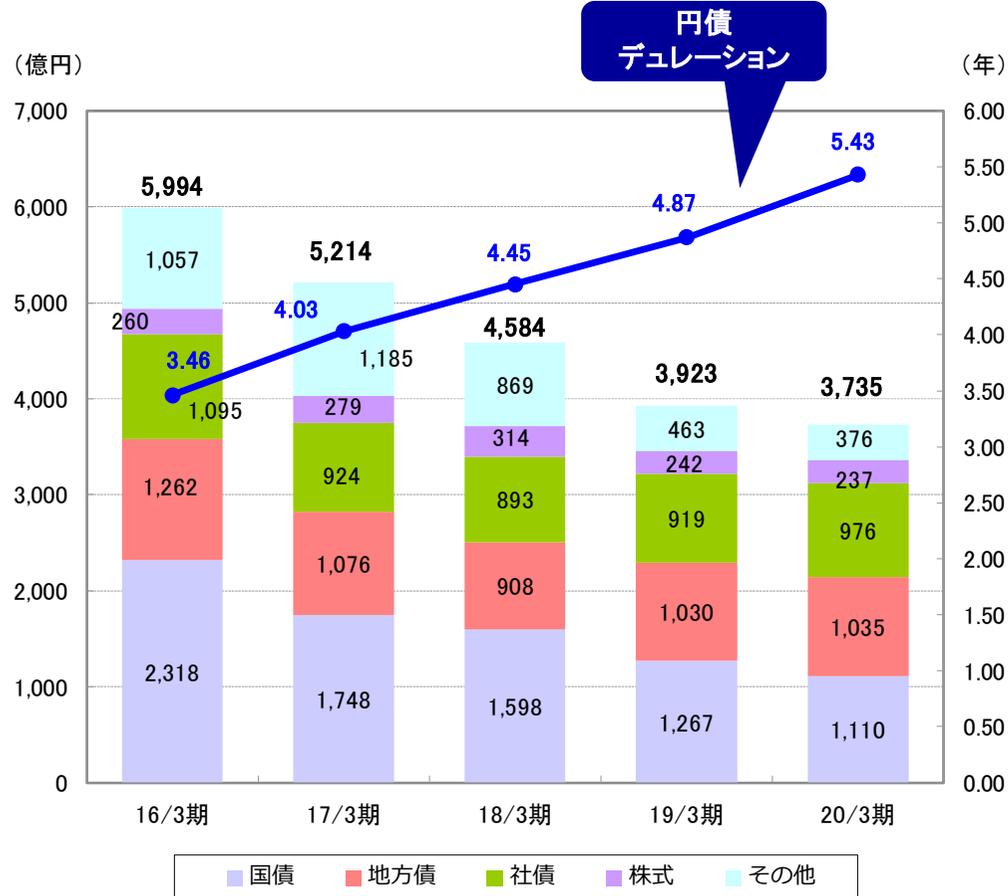
地銀平均との預貸金利回り差



※地銀平均は全国地方銀行協会ホームページ「地方銀行の決算の状況」より

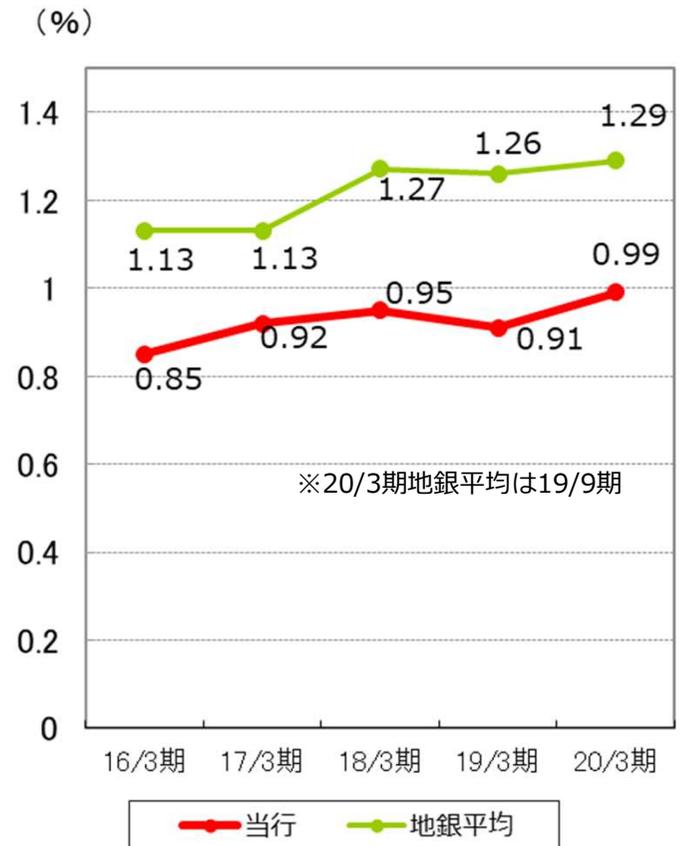
有価証券（未残）

未残・円債デュレーション



※デュレーションは変動利付国債を含んだ数値を開示しております。

利回り

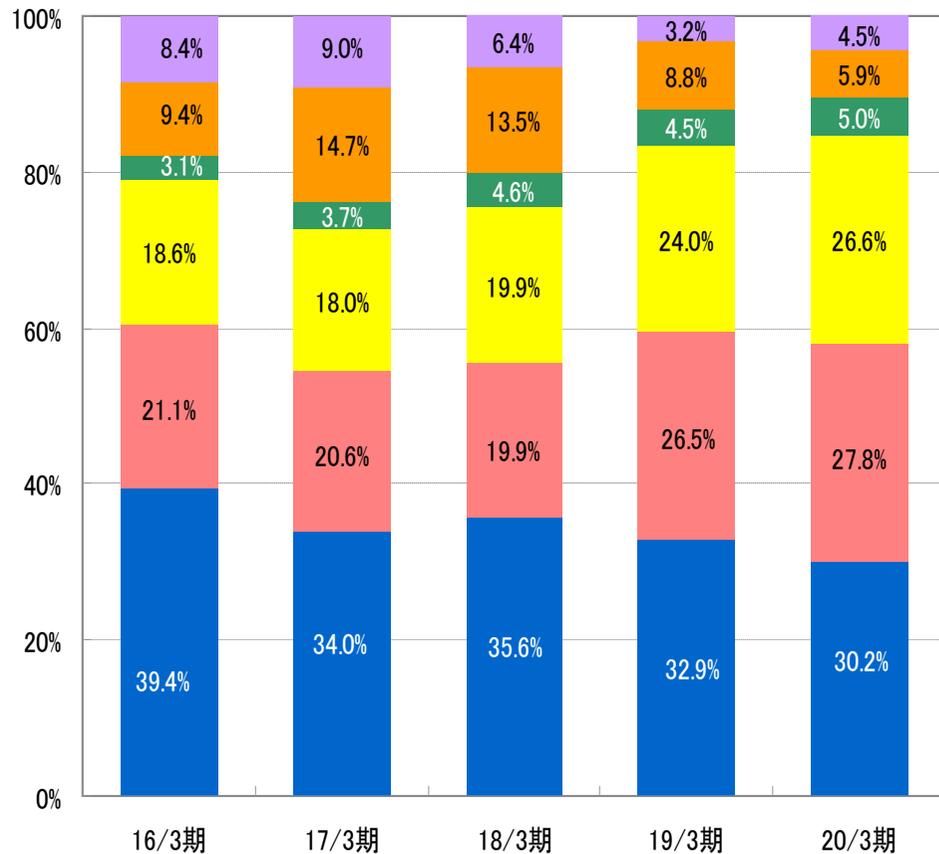


※地銀平均は全国地方銀行協会ホームページ「地方銀行の決算の状況」より

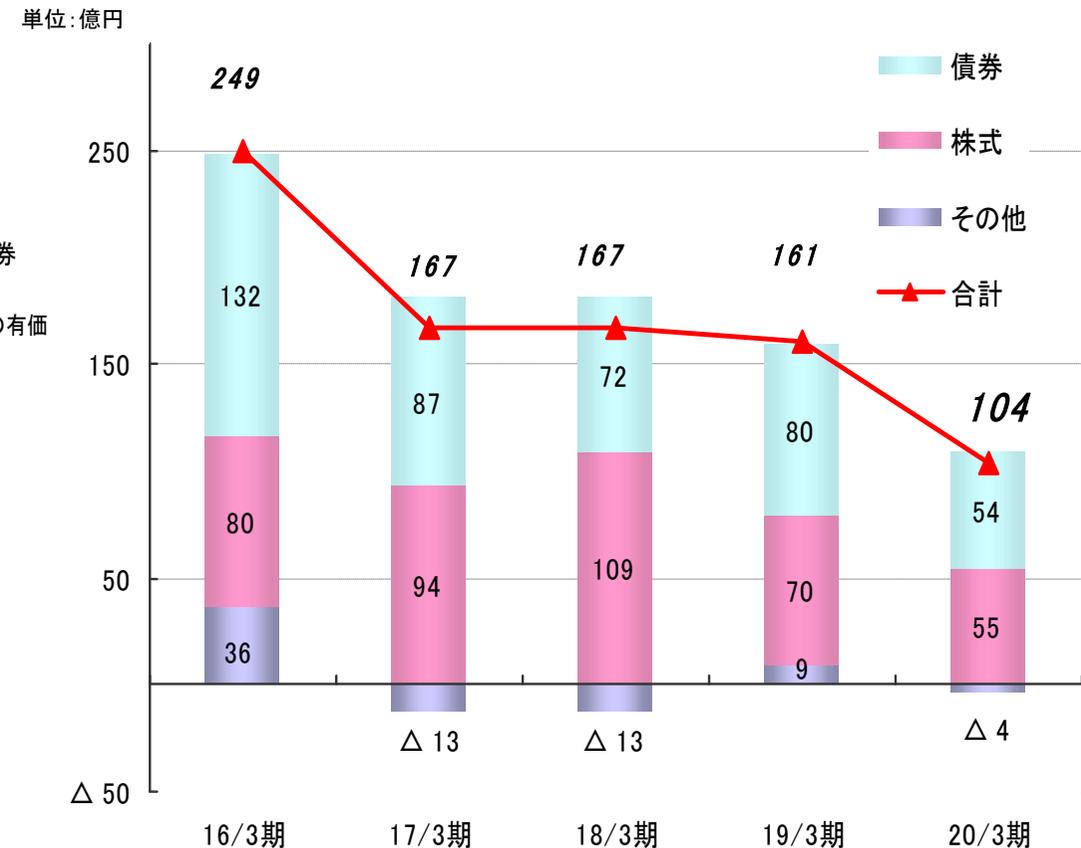
有価証券のアロケーションと評価損益の推移

円金利資産のリバランスを継続実施。評価益は対前年比▲56億円。

有価証券構成比率（期末取得原価）



有価証券評価損益推移



経費の推移

物件費の増加（前期比3億53百万円）により経費は増加（4億52百万円）。
コアOHRも上昇し、対前年比+0.7ptの72.7%となる。

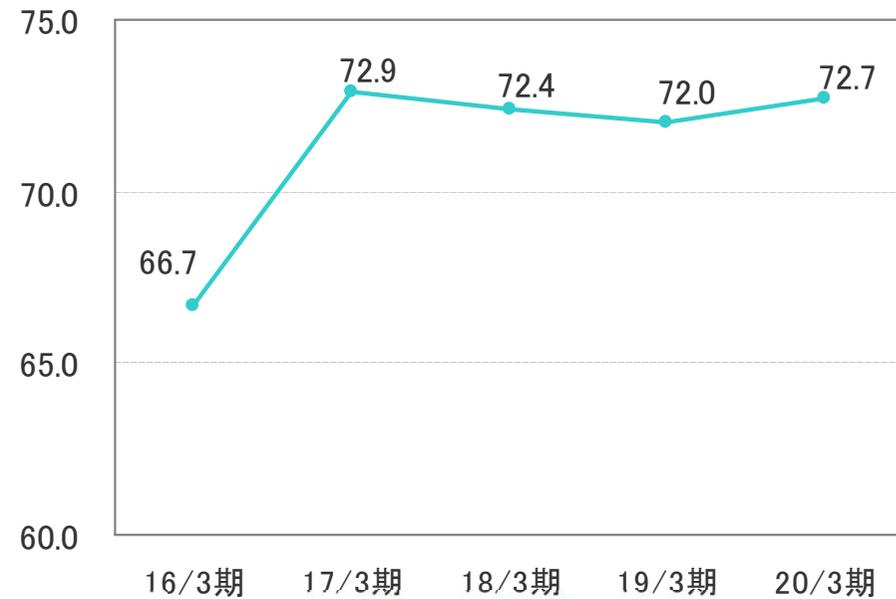
経費の推移



人件費上昇

物件費増加
(通信費・広告費・コンサル
費用等)

コアOHRの推移



コアOHR上昇

自己資本比率（国内基準）は、9.91% 貸出金の増加により自己資本比率は低下したものの、健全性は確保

単位：百万円、%

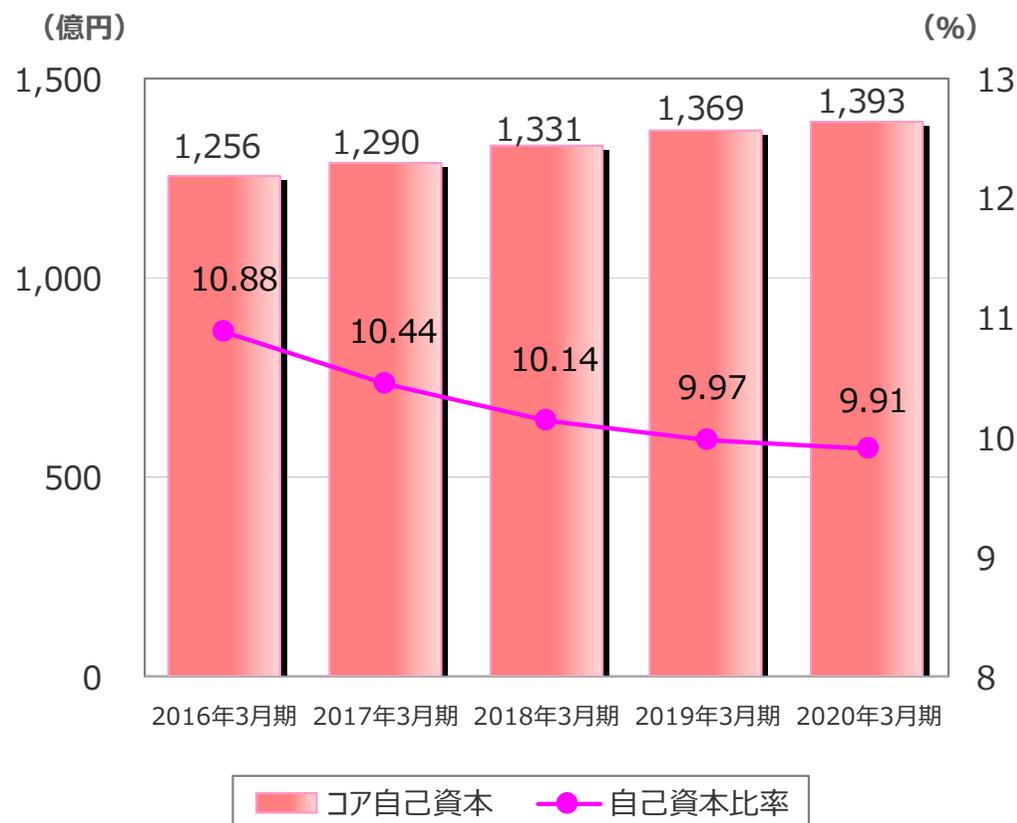
【連結】	2019/3期	2020/3期	前期比
自己資本比率	10.59%	10.52%	△0.07
自己資本の額	148,401	151,057	2,656
コア資本に係る基礎項目	149,884	152,488	2,604
コア資本に係る調整項目	1,483	1,430	△ 52
リスクアセット	1,400,164	1,434,626	34,462

【単体】	2019/3期	2020/3期	前期比
自己資本比率	9.97%	9.91%	△0.06
自己資本の額	136,985	139,372	2,387
コア資本に係る基礎項目	138,341	140,706	2,364
コア資本に係る調整項目	1,356	1,333	△ 22
リスクアセット	1,373,061	1,405,305	32,243

中小企業向け貸出、個人向け貸出の増加等によりリスクアセットが増加し、自己資本比率は低下しているものの、健全性を維持している。国内基準行の地銀平均の9.59%（2019/9期平均）を上回っている

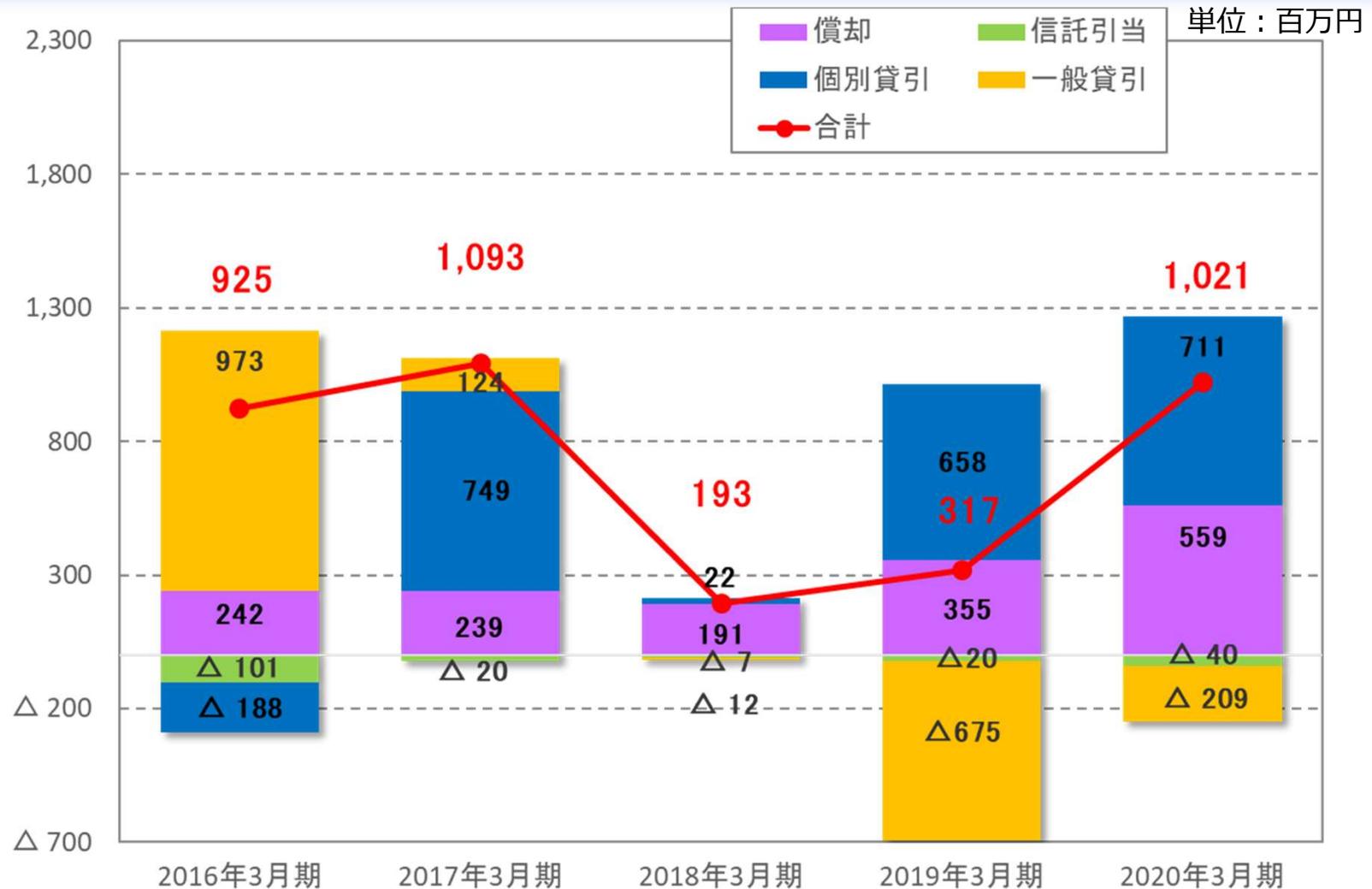
※地銀平均は全国地方銀行協会ホームページ「地方銀行の決算の状況」を基に当行にて算出

自己資本および比率の推移（単体）



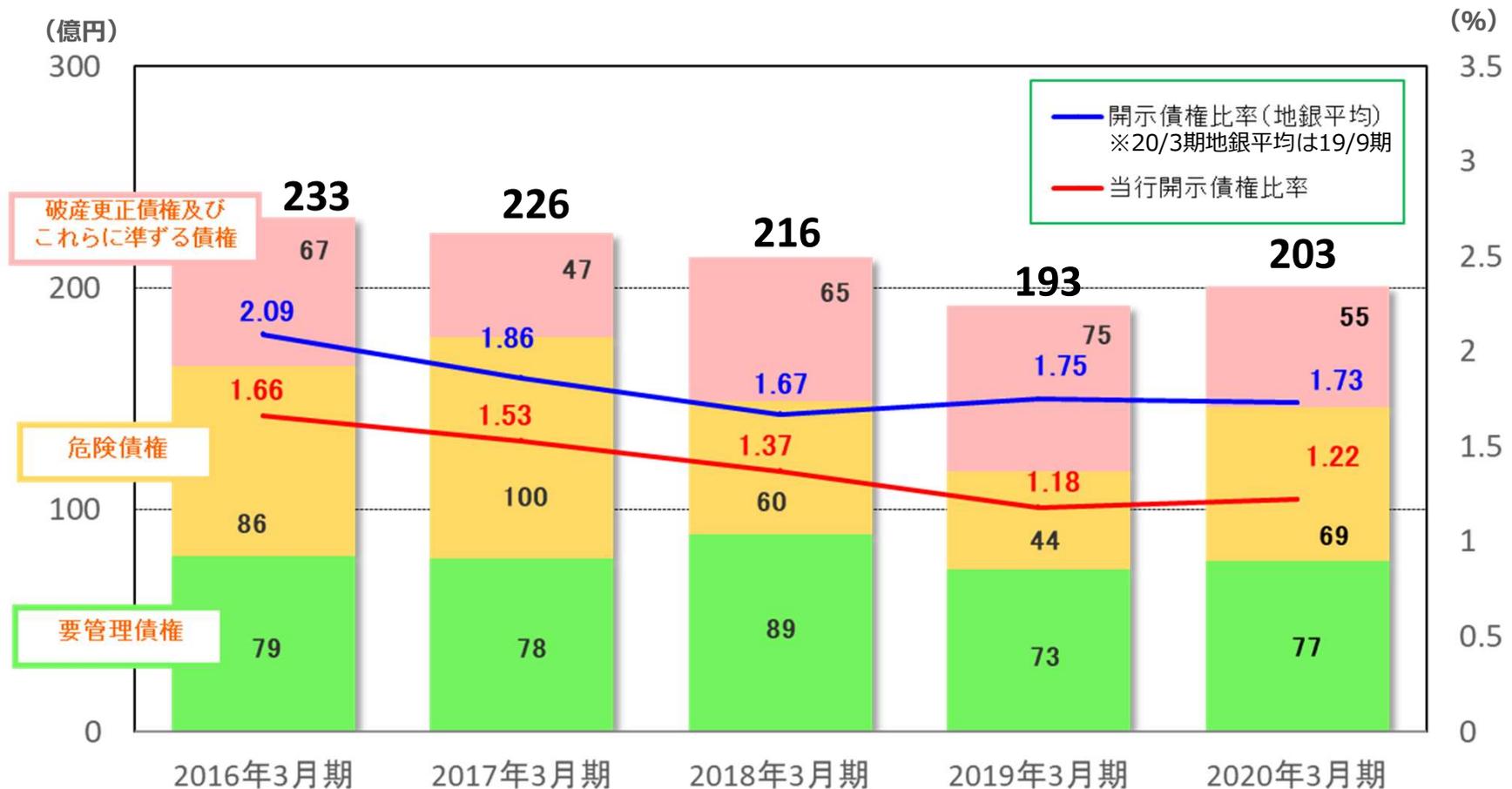
与信費用の推移

与信費用全体では、前年度比7億4百万円増加の10億21百万円



金融再生法に基づく開示債権

開示債権203億円（開示債権比率1.22%）
地銀平均1.73%を下回っており、低い水準で推移



※地銀平均は全国地方銀行協会ホームページ「地方銀行の決算の状況」を基に当行にて算出

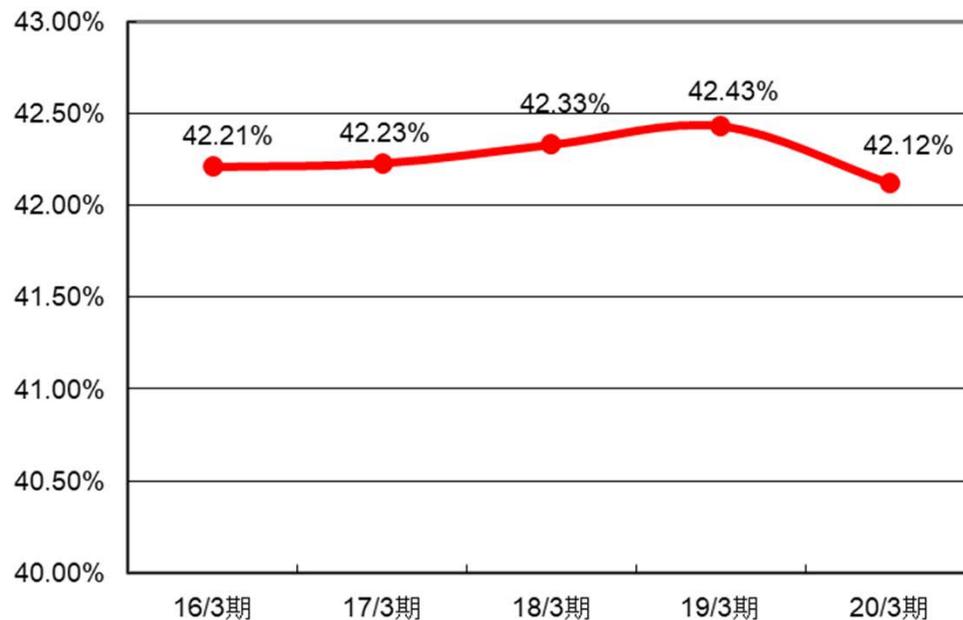
沖縄県内シェア（3行シェア）

貸出金・預金シェアともに高水準を維持

貸出金シェア 42.12%（前期比 ▲0.31ポイント）

預金シェア 41.93%（前期比 ▲0.24ポイント）

貸出金（平残）



預金（平残）

